

- ・正答率が都平均よりも特に下回ったのは「書く」「読む」の分野であった。特に文の中における主語と述語の関係についての理解に課題があった。

〈授業改善のポイント〉

- ・主語と述語の意味や関係の指導は、児童の実態に応じて段階的な指導を行うことが効果的であると考えられる。

① 教師が主語を規定して、述語を問う。

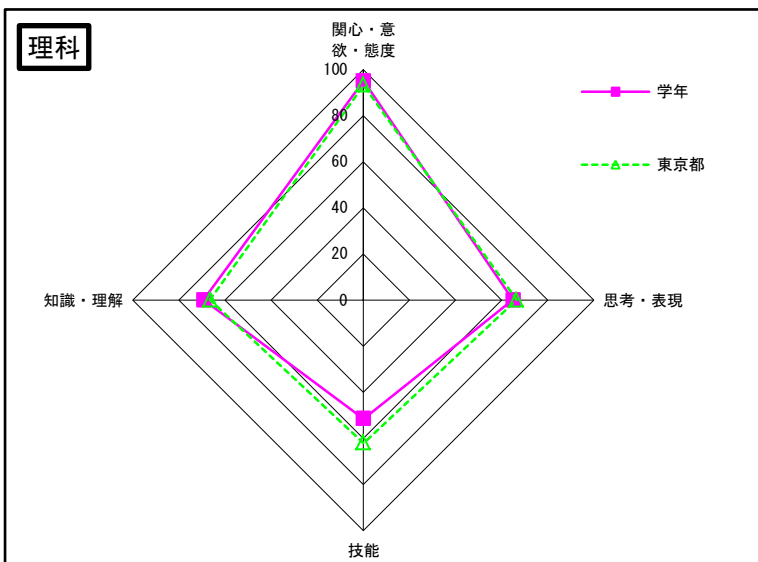
主語と述語の関係についての指導ではまず、主語にあたる部分を示してから述語にあたる部分を問うことが大切である。なぜなら、日本語は主語が省略されたり、文頭になかったりすることがあるので、主語が捉えにくい場合があるからである。

② 述語を規定して、主語を問う。

述語にあたる部分を示してから主語にあたる部分を考えさせ、主語と述語との関係について捉えさせる。

③ 主語と述語を問う。

述語にあたる部分を探してから主語にあたる部分を探すと主語と述語の関係が捉えやすい。



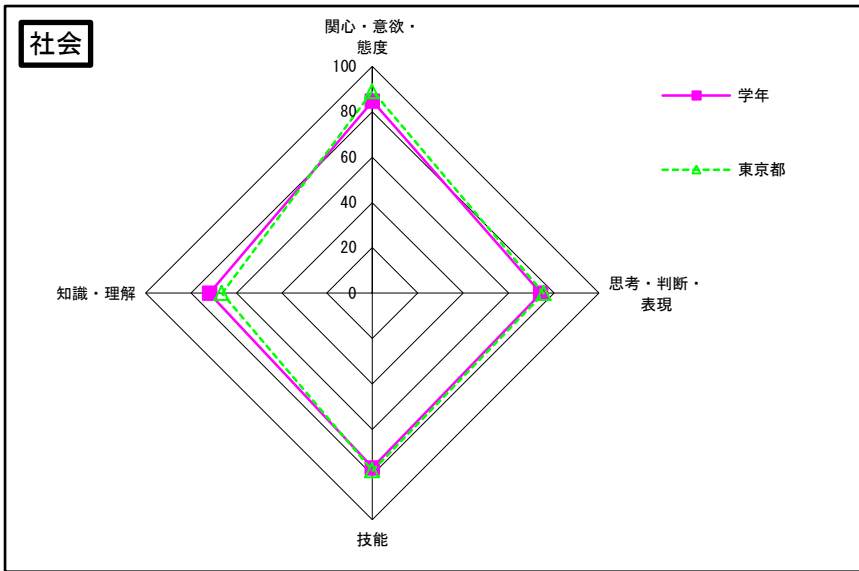
- ・ほとんど都平均と同じであったが、「技能」の分野に課題が見られた。

〈授業改善のポイント〉

観察・実験器具の技能を確実に習得するために、繰り返し操作をさせる指導の充実を図る。

・児童が問題解決の過程において、解決したい問題に対する結果を導き出す際、重要になるのは、観察・実験の結果である。観察・実験などに関する技能を身に付けることは、自然の事物・現象についての理解等に関わる重要な資質・能力の一つである。

方位磁針等の観察・実験器具の技能を確実に習得するために、繰り返し操作をさせる指導の充実があげられる。



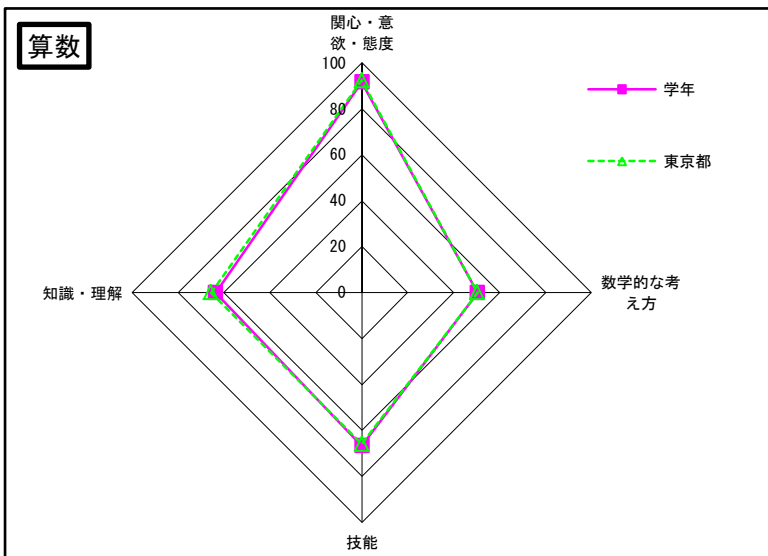
・社会では、特に「比較・関連付けて読み取る力」「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」に課題が見られた。

<授業改善のポイント>

各単元(小単元)終了時に捉えさせたい「社会的事象の意味(社会的事象の特色や相互の関連)」を児童の言葉で想定しておく。

指導計画の立案時に、児童に捉えさせたい社会的事象の意味、社会的事象の特色や相互の関連を確認し、さらにその詳しい内容を児童の言葉で想定しておくことが大切である。

想定した児童の言葉は、指導計画作成時の手掛かりとする。児童がこの言葉にたどり着くために必要な学習活動、資料、発問及び指示、及び考えをもつことが難しい児童への支援等について検討する際に活用していく。



どの分野も都平均と同じくらいの値であった。

問題の場面から情報を正しく取り出すことに課題が見られた。

<授業改善のポイント>

統計的な問題解決の素地を育てる指導の充実を図る。

日常の場面において、問題を解決するために、どのようなデータが必要でどのように解決するのかという計画を立て、実際にデータを集めた場合、問題を解決するための十分な情報を得られてない場合がある。分かっている情報が限定されている場合、分かっている情報から足りない情報を補うことも必要である。

数量関係の学習では、2次元表の活用の技能を定着させるとともに、問題解決のためにデータを処理する学習活動を実態に応じて展開し、統計的な問題解決の素地を育てていくことが大切である。